

令和 6 年度

総務企画常任委員会所管事務調査

報 告 書

所管事務調査テーマ

1 消防活動体制及び救急活動体制の現状

平川市議会

- 1 調査日時 令和7年1月30日（木） 午後2時から午後4時
- 2 場 所 弘前地区消防事務組合（弘前市）
- 3 出席委員 中畑一二美 委員長 桑田公憲 副委員長 葛西厚平 委員
福士 稔 委員
- 4 説明者 弘前地区消防事務組合 中村康司 消防長 ほか職員 11名
- 5 出席職員 議会事務局 浅原 勉 次長補佐 佐藤 吏 主査
- 6 調査内容 消防活動体制及び救急活動体制の現状
- 7 調査目的 災害に強い防災体制の充実を目標とする当市の消防・救急需要に対応しているか、消防及び救急活動体制の現状を把握する

8 調査の進め方

弘前地区消防事務組合本部で担当職員より組織や体制の概要説明を求め、消防指令センターや配備している車両を調査しました。

9 調査結果

（1）弘前地区消防事務組合概要

ア 発足

平成25年に弘前地区消防事務組合、黒石地区消防事務組合、平川市消防本部、板柳町消防本部が統合して発足

イ 構成市町村

弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、板柳町、大鰐町、田舎館村、西目屋村

ウ 管轄規模

面 積 1,598.23km²

人 口 263,614人

世 帯 数 115,853世帯

エ 消防体制

消防体制 1消防本部、5消防署、10分署

職 員 数 458名（うち女性職員15名、再任用職員18名）

配備車両 79台（水槽付きポンプ車、高規格救急自動車、広報連絡車など）

（2）平川消防署管轄の概要

ア 市内の消防署等

平川消防署、碓ヶ関分署

イ 職員数

平川消防署 46名（1当務当たり15名前後で対応）

碓ヶ関分署 12名（1当務当たり4～5名前後で対応）

ウ 配備車両

平川消防署 消防車両6台、予備車1台

碓ヶ関分署 消防車両3台

（3）市町村負担金（令和6年度予算）

弘前市 約2.2億円

黒石市 約6.5億円

平川市 約6.9億円

藤崎町 約2.4億円

板柳町 約2.5億円

大鰐町 約2.5億円

田舎館村 約1.6億円

西目屋村 約0.6億円

（4）近年の火災・救急状況

ア 火災状況

[件]

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
弘前消防管内	建物火災	57	54	56	54	57
	林野火災	5	0	2	0	4
	車両火災	5	6	4	3	12
	その他火災	42	39	38	25	55
平川市	建物火災	9	9	2	5	7
	林野火災	3	0	0	0	0
	車両火災	2	1	1	0	2
	その他火災	11	5	7	3	8

イ 救急状況

・件数は年々増加傾向にあり、平川市は全体の約1割

[件]

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
弘前消防管内	9,962	10,670	12,801	13,582	13,441
平川市	970	1,025	1,237	1,318	1,341

・平成25年と令和5年を比較すると、出動件数はプラス3,527件、レスポンスタイムは、プラス1分12秒となっている。

・8時から16時の日中の出動が約50%を占める。

これらのことから、救急需要対策について検討が必要となり、試験的運用を実施したところ、平均レスポンスタイムが1分54秒短縮されていた。

ウ 令和6年度の主要事業

(ア) 共同指令施設及び指令センター建設事業

弘前地区消防事務組合、五所川原地区消防事務組合、鱒ヶ沢地区消防事務組合の3組合で令和8年4月から運用開始を予定。弘前消防署隣地に建設中。

(イ) 杵形分署新庁舎建設事業

(ウ) 杵形救急ステーション庁舎改修工事

(エ) 防火衣更新事業

(オ) 弘前消防署はしご付き消防自動車オーバーホール

(5) 今後の課題

ア 災害の多様化

イ 大量退職に伴う消防力の低下

ウ 女性消防職員の確保

エ 定年延長制度による職員の活用

オ 関係市町村負担金の抑制

カ 救急需要の増大に伴う対応

キ 職員の働き方改革

ク 若年層や幹部職員の人材育成

ケ 消防の広域化・連携協力の推進

コ DX推進化

(6) 質疑応答の概要

問 人材確保に向けた取組は。

答 消防活動ポスターやパンフレット、グッズ配布などのほか、SNS等で情報発信をしています。また、新規採用者を平準化する必要があり、前倒し採用を行うことなどで消防力の維持に努めています。

問 救急活動における署所ごとの連携状況は。

答 第1出動の後に同地域からの出動要請があった場合、第2、第3順位の救急隊からの出動をする連携をとっています。

問 救急救命士の現状と課題は。

答 132名の資格保有職員がおり、救急隊としては100名が実働しています。毎年2名の救急救命士を他県で研修させるなど定期的な養成に努めています。

問 広域化により大規模災害対応力の低下が懸念されるが、メリットとデメリットは。

答 メリットは、職員の再配置、災害対応車両の増、通信指令の一本化などで消防力の強化が図られる点です。デメリットはありません。

なお、消防力の強化により、災害対応はできていると考えています。地理的経験不足については、各署所の水理調査等を通じてフォローするほかに、災害地点周辺の建物や消火栓などの情報を見ることができる車両動態システムにより、職員の負担を軽減しています。

問 緊急性のない救急要請の対応は。

答 救急要請には、状況確認をして全て出動しています。

問 全国の事例では、救急車の実質有料化など、緊急性のない救急搬送対策につながる動きも見られる。今後の動きは。

答 消防としてはないが、医療機関が選定療養費を徴収する制度があり、医療機関の考えによっては制度を導入する自治体が増えることも考えられます。

なお、迷った方のための、あおり救急電話相談（＃ 7 1 1 9）があり、広報により周知しています。

問 救急出動があっても搬送しない事例があるが、どのような状況なのか。

答 既に死亡しているなど搬送の必要がなく警察に引き継ぐ場合のほか、傷病者本人が自力で医療機関を受診することを希望する場合などがあります。

問 通報者からの情報をより得るため、映像通報システムなどがあるが、導入の予定は。

答 令和 8 年度完成の共同指令施設及び指令センターの事業の中で計画をしています。

問 管轄内で救急搬送先のたらい回しなどの事例はあるのか。

答 ありません。

問 救急車両のサイレンを鳴らさない要望はあるか。

答 要望される方もいますが、生命に関わる可能性もあるため、必ず鳴らすことをご理解いただいています。

問 救急救命士の資格取得者を優先的に採用しているか。

答 優先的には採用しておらず、総合的に判断して採用しています。

問 8 月に救急搬送が多いが、傾向は。

答 令和 5 年度 8 月は猛暑であったため熱中症による搬送が多く、1 2 月に多いのは雪の事故、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスに伴う救急搬送が多かったと考えます。全体として増加している理由として、確定的ではありませんが、高齢化社会に伴い、高齢者の搬送が全体の 7 割を占めているので、全国的な傾向と推察します。

10 調査所感

（１）中畑一二美 委員長

弘前地区消防事務組合消防本部で行われた今回の所管事務調査は、大会議室での消防、救急の現状についての概要説明や、消防指令センターや消防車両等の説明など、普段、立ち入ることのない現場を視察させていただき、貴重な経験をさせていただきました。

日夜、私たちが安心して暮らせるためにご尽力されていることに対し、改めて敬意

を表したいと思います。

通報の際、普通は通報者は落ち着いて状況説明をすることはできません。しかし、人命に関わる状況において、正確な状況把握は不可欠です。質疑応答時に、通報者のスマートフォンからの映像により情報提供ができる、L i v e 1 1 9（東京都）のような映像通報システムについて質問したところ、令和8年度完成の共同指令施設及び指令センターの事業の中に盛り込まれるとのことでした。導入により、圏域全体において、さらなる救命率の向上につながるものと考えられます。

今後におかれましても、特殊災害や大規模災害の多発など災害の多様化、大量退職に伴う消防力の低下や女性消防職員の確保など課題は山積しておりますが、これからも地域のために無事故で職務に邁進していただきたいと思います。

（２）桑田公憲 副委員長

ホームページで公開している消防年報の救急の統計を見ると、過去5か年の救急出動件数の推移は増加傾向にあり、当市においても、令和6年は1,341件と増加傾向にあります。個人的な感覚としても、周囲での救急搬送が増えているように感じている中、実態調査してまいりました。

当日、消防本部の大会議室では、多忙の中、消防長や各課の課長など多くの職員が我々のために出席いただき、大変恐縮でありました。

質疑応答において、救急通報があれば全ての事案に出動しており、緊急性がない通報などがある中、住民の命を守るために尽力されており、また、異動した職員は、地域の地理に詳しくない状況にあります。自主的な現地調査を行っている話を聞き、今の万全な消防・救急体制は職員のたゆまぬ努力の賜物であると感じております。

所管事務調査を終え、組合における消防・救急体制は、当市における需要を満たしていることを再確認することができました。職員の皆様に対しましては、これからも引き続き注意を怠らず、昼夜を問わずその職責を果たされますことを切に願うものであります。



消防本部大会議室にて



消防指令センター状況を調査



救急車、はしご車の調査